

# 前回の検討内容と整理

資料 1

(現行)「にっこり安心プラン」(平成21～23年度)

## 【基本理念】

健康で生きがいをもち、安心して自立した生活を送ることができる、  
笑顔あふれる長寿社会の実現

## 【リーディングプロジェクト】

- 介護予防対策の充実
- 団塊・シニア世代対策の推進
- 認知症高齢者対策の推進

## 【基本目標】

### 1 健康ではつつとした生活の実現

[成果指標]

- ・健康づくり推進員養成者数 (H22目標:1,010人 現状:1,014人)
- ・介護予防教室開催回数 (H22目標:792回 現状:817回)

### 2 ゆたかで生きがいのある生活の実現

[成果指標]

- ・高齢者外出支援事業利用者数 (H22目標:19,100人 現状:15,199人)
- ・みやシニア活動センター延利用者数 (H22目標:1,440人 現状:1,790人)

### 3 安心して自立した生活の実現

[成果指標]

- ・要介護・要支援認定者の介護サービス利用率 (H22目標:76.2% 現状:78.1%)
- ・認知症サポーター数 (H22目標:10,000人 現状:9,458人)

### 4 快適で安全安心な生活の実現

[成果指標]

- ・交差点の段差解消箇所数 (H22目標:2,714箇所 現状:2,739箇所)
- ・災害時要援護者支援事業登録者数 (H22目標:10,950人 現状:8,138人)

これまでの取組状況の評価とそれを踏まえた今後の課題

## ■ 取組状況の評価・課題の整理

庁内策定委員会・社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会において、現行計画の取組状況への評価・課題について整理

## ■ 今後の課題として考えられるもの

### ◎ 地域社会の機能の活性化

高齢者の主体的な地域社会への参画を促進するとともに、一人暮らしや要介護等の高齢者の増加を踏まえ、地域社会における相互扶助その他の機能の活性化を図る必要がある。

#### [主な意見]

- ・「一人暮らしの高齢者などが抱える問題に対し、地元自治会と公とが協力して取り組む必要がある。」
- ・「地域で生活していくためには、自治会など地域の活動が重要であり、高齢者を含めた市民の一層の参加が図られることが望ましい。」

### ◎ 多様なライフスタイルを可能とする自立支援

年齢や状況にとらわれずに多様なライフスタイルを実践したいとする者の増加を踏まえた施策の展開や、健康寿命を延ばすための施策の展開が必要

#### [主な意見]

- ・「介護予防を推進するためには、地域包括支援センターの役割が大きい。より一層、地域に根付かせ、認知度を向上させていくことがポイントになる。」
- ・「老人クラブに入るには健康的に困難であるが、介護保険施設等に入るまでの状態でない方達、いわゆる合間にいる方達の生活を支援する必要がある。」

## ■ 次期計画の目標の設定

課題を踏まえた目標の設定

# 現行計画における今後の課題

第5次宇都宮市高齢者保健福祉計画  
第4期宇都宮市介護保険事業計画  
(平成21~23年度)

- 基本目標1 健康ではつらつとした生活の実現
- 健康づくりの推進
  - 疾病予防対策の推進
  - 介護予防対策の充実

- 基本目標2 ゆたかで生きがいのある生活の実現
- 生きがいづくりの充実
  - 社会参画の促進

- 基本目標3 安心して自立した生活の実現
- 介護保険事業の充実
  - サービスの質の向上
  - 福祉サービスの充実
  - 地域保健・福祉体制の充実
  - 認知症高齢者対策の推進
  - 高齢者の権利擁護の充実

- 基本目標4 快適で安全安心な生活の実現
- ユニバーサルデザインの推進
  - 安全で安心な暮らしの確保
  - 高齢者にやさしい居住環境の整備

第5次宇都宮市高齢者保健福祉計画  
第4期宇都宮市介護保険事業計画における課題の整理

- ・ 健康づくり推進員を活用した地域主体の健康づくりの推進
- ・ 幅広い年齢層に対する健康教育の充実
- ・ 特定健康診査の受診率向上に向けた健診体制の充実
- ・ 生活習慣病予防の理解促進に向けた周知・啓発の充実
- ・ 効果的な介護予防事業の推進
- ・ 介護予防の理解促進に向けた周知・啓発の充実
- ・ 高齢者の状況に応じた生きがいづくり
- ・ 地域社会を支える新たな担い手である「団塊の世代」等に対する支援の充実
- ・ 関係機関・団体等と連携・協力した社会活動への参加促進
- ・ 高齢者の多様なニーズに応じた地域包括ケアの推進
- ・ 介護保険制度の理解促進に向けた周知・啓発の充実
- ・ 質の高い介護人材の安定的な確保のための取組
- ・ 県や関係機関と連携した介護人材の育成支援
- ・ 福祉サービスの認知度向上に向けた周知・啓発の充実
- ・ 高齢者のニーズに応じた福祉サービスの検討
- ・ 地域を支えるボランティアの養成・活動に対する支援の充実
- ・ 自治会をはじめとする関係機関・団体等と連携した地域づくりの推進
- ・ 認知症に対する正しい知識の普及や理解の促進
- ・ 医療・介護・福祉が連携したケア体制の充実
- ・ 成年後見制度、日常生活自立支援事業の理解促進に向けた周知・啓発の充実
- ・ 虐待の防止・早期発見に向けた取組の推進
- ・ イベントや身近な交流活動を通じた福祉のこころをはぐむ人づくりの充実
- ・ 高齢者の身近な場所での啓発・教育活動の充実
- ・ 災害時に迅速・的確な対応ができる支援体制の充実
- ・ 安心して住み続けることのできる高齢者の居住環境の整備

時代の潮流

- ・ 本格的な人口減少時代の到来と急速な高齢化の進展
- ・ 新たな社会的リスク(「孤独死」・「孤立死」)の発生
- ・ 価値観の変化・多様化
- ・ 東日本大震災の発生

今後の課題のまとめ

地域社会の機能の活性化

高齢者の主体的な地域社会への参画を促進するとともに、一人暮らしや要介護等の高齢者の増加を踏まえ、地域社会における相互扶助その他の機能の活性化を図る必要がある。

多様なライフスタイルを可能とする自立支援

年齢や状況にとらわれずに多様なライフスタイルを実践したいとする者の増加を踏まえた施策の展開や、健康寿命を延ばすための施策の展開が必要

国等の動き

- ・ 地域包括ケアシステムの構築
- ・ 地域福祉の推進
- ・ 認知症対策の推進
- ・ 介護労働力の確保・定着
- ・ 高齢者医療制度改革
- ・ 健やか生活習慣国民運動